

從語言產出角度考察「ある・いる」的涵義與用法 ——日中對照研究——

林燮鎧

東吳大學／日本語文學系 博士生

摘 要

關於”ある”和”いる”的使用區別，在日語教學時，會以人和動物用”いる”，除此之外則用”ある”來做區分。但是，實際的語言現象發現屬於有情物的”子ども(小孩)”及無情物的”ロボット(機器人)”，”ある”和”いる”兩者都有使用。這類跳脫前述二分法的用法，往往會讓日語學習者感到混淆，不知該如何正確區分使用。另外，將”ある”和”いる”中譯後會發現所在句、所有句可譯為“有…”，存在句則譯為“在”，並沒有像日文有”ある”和”いる”的使用區別。因此，”ある”和”いる”的使用區分是學習者經常提出的問題。

為使日語學習者能更精確地使用，從名言和諺語的例句來考察存在表達的涵義及用法。探討時代變遷、語言共識的變化之下，有情的”いる”和無情的”ある”的區別在當今時代是否仍適用？並進一步分析有關”ある・いる””ある・もつ”重疊部分的使用判斷基準，是否異於有情物”いる”和無情物”ある”的基本區分用法。

關鍵詞：產出，存在表現，いる，ある

産出のための存在表現「ある・いる」の意味用法考察 — 日中対照研究 —

林 燾 鎧

東呉大学／日本語文学系博士課程 院 生

要 旨

教育現場では有情「いる」と無情「ある」の区別をするものの、有情である「子ども」や無情である「ロボット」は「ある・いる」両方とも使われている。有情の「ある」と無情の「いる」用法で日本語学習者を混乱させてしまったのである。また、「ある・いる」を中訳すると、区別なしに所在・所有文は「有」、存在文は「在」となる。よって「ある・いる」の意味用法の区別はよく問われる。

日本語学習者により正確に産出するため、名言と諺から存在表現の意味用法を考察する。時代につれ、有情の「ある」と無情の「いる」の区別は今の時代でも適用かどうか。また、「ある・いる」「ある・もつ」の重なる部分の使用判断基準について、有情「いる」と無情「ある」の基本区別から離れているかを探ってみる。

キーワード：産出、存在表現、いる、ある

In the perspective of the language production to inspect of the meaning and usage of “ある・いる” between Japanese and Chinese

Lin Mei-Tseng

Soochow University/Ph.D. student

Abstract

About the differentiated usage of いる(=iru)” is for people or animal (=living creatures), 「ある」 for other things (=non-living things) in the on-the-spot teaching of Japanese, However, in practical phenomenon of application discovered that both “ある” and “いる” can be used in “子ども(=child)” which belongs to living creatures and “ロボット(=robot)” which doesn’t. In this kind of application which escapes the previous dichotomy often confuses Japanese learners, not knowing how to differentiate its usage. Also, if you translate “ある” and “いる” into Chinese, in possessive sentences and presence sentences which would mean “has,” and in the existential sentences which would mean “is”, not as Japanese with the differentiation of “ある” and “いる” Therefore, it is a question that Japanese learners often brought out.

This thesis aimed at inspecting the meaning and usage of existential performance from examples of famous saying and proverbs, in order to be more precisely used by Japanese learners. In the wave of changes for time and consensus language, whether it is still applicable to differentiate “ある” a non-living things and “いる” a living creatures nowadays. Moreover to analyze whether the overlapping criteria of application in “ある・いる” “ある・もつ” has deviated from the basic distinction for “ある” a non-living things and “いる” a living creatures.
Keywords: language production, expression of existence, いる, ある

産出のための存在表現「ある・いる」の意味用法考察 — 日中対照研究 —

林燮鎧

東呉大学／日本語文学系博士課程 院生

1. はじめに

柳父(1982)によれば、「存在」という日本語の名詞は、明治4年にフランス語の「être」から翻訳されたのが出始め、その時から哲学用語として定着してきたという。柳父も次のように論じている。日本語には、フランス語の「être」に対応できるのは動詞の「ある」または「いる」があるだけで、それに対応する名詞がなかったことにある。

存在表現である「ある」や「いる」に少なくとも所在、存在、所有を表す三つ通りの用法がある。日本語が母国語の人は無意識に使い分けている「ある」と「いる」、教育現場では有情「いる」と無情「ある」の区別をするものの、有情である「子ども」や無情である「ロボット」は「ある・いる」両方とも使われている。第二言語として日本語を勉強している学習者からみれば、大いなる戸惑いを感じる場所である。また、翻訳・通訳希望者の場合、「ある」と「いる」の使い分けのような基本中の基本の知識さえわからないと、訳者としての専門能力が疑われる可能性がある。よって、「ある」と「いる」を適切に産出するため、本稿は現代でも実際に使われている名人名言や文化の結晶ともいわれる諺からみた存在表現の「ある・いる」を考察し、その使い分けを明らかにしたいと思う。

本論の構成は全6節からなる。第2節では、存在表現の定義と構文に関する内容を説明する。第3節で所在文、第4節で存在文、第5節で所有文を論議する。第6節はまとめと今後の課題を述べて本研究を締めくくる。

2. 存在表現の定義と構文

益岡・田窪(1992:84)は、「ある」と「いる」が用いられる構文を「存在・所在の構文」と呼び、存在を表す構文の基本は「(場所)ニ＋(存在の主体)＋ガ＋イル／アル」の形であるとしている。Kishimoto(2000)でも、「ある」と「いる」は、「所在－存在の意味 locative-existential meaning」と「所有の意味 possessive meaning」という二種の意味をもつとされている。また、寺村(1982)では、「ある・いる」のはたらきの分類と、対象の別との関係が〈人、動物〉と〈それ以外〉として記されている。まとめると以下のような

①出来事の発生

述語：アル、起コル、発生スル

例文：ケサ、アノ交差点デ事故ガアッタ

補語：出来事(X)→Xが

場所(Y)→Yで(副次補語)

②物理的存在（あるとき、あるものがある空間を占めて存在する）

述語¹：アル、ナイ、イル、多イ、少ナイ

例文：アソコニ魚屋ガアル

アソコニ魚屋サンガイル

補語：存在するもの(X)→Xが

存在の場所(Y)→Yに(準必須補語)

③所有、所属的存在

述語²：アル、イル、多イ、少ナイ

例文：彼女ニ子ドモガアルトハ知ラナカッタ

補語：存在するもの(X)→Xが

¹ 物理的存在の場合、対象が人、動物であれば述語はイル、イナイ、それ以外であれば述語はアル、ナイ。

² 所有、所属的存在の場合、対象が人、動物であっても、アルの方がイルよりよく使われる

Xを所有する人、あるいはXが所属する人(Y)→Yに

④部分集合、または種類の存在

述語：アル、イル、多イ、少ナイ

例文：何カ質問シタイ人ハアリマセンカ？

補語：主体(ある部分集合)(X)→Xが

判断の及ぶ範囲(Xを含む集合)(Y)→Yノ中ニ(副次補語)

(寺村 1982 : 155-161)

寺村は「ある・いる」の使い分けについて、①「出来事」の場合に「いる」が用いられることはなく、述語に「ある」のみがあげられている。②③④すべてが「存在」にかかわる説明である。また、①—④のうち、「ある・いる」の使い分けが生じるのは②③の場合に限られると説明されている。また、益岡・寺村や田窪、Kishimotoは存在・所在の用法を同様扱いとしているように見えるが、もの所在を示す所在文ともの存在を示す存在文との構文や語順などが違うため、本稿は別々に論議する。また、①「出来事」の場合は述語に「ある」のみであるため、それを射程からはずす。

人間の心のメカニズムに密接にかかわっている、言葉の意味は、外部世界に客観的に存在しているのではなく、われわれの具体的な経験を基盤とする認知のインターフェイスを介して理解され動機づけられている。言語主体としての人間は、外部世界との相互作用を通して、具体的な経験を意味づけている。

(山梨1995 : 3)

言葉は話し手が目の前にあるものの判断によって、言葉が決まる。次は存在主体の所在や存在、所有について、それぞれの構文とその実際の使用実態によって「ある・いる」の使い分けを考察していきたいと思う。

3. 所在文

所在文はあるものの所在するということを述べる文である。所在

文の基本構文は「(存在主体)は(場所)にある/いる」の形である。
次は例文を上げて、所在文の「ある・いる」の使い分け説明する。

- (1) 大きな夢を持つことで、仮にそれが叶わなかったとしても、その夢の近くにいることができたり、付随する小さな夢は叶っていたりするものだと僕は感じています。(福山雅治)
- (2) 最も大きな危険は勝利の瞬間にある。(ナポレオン)
- (3) 私の最大の光栄は一度も失敗しないことではなく倒れるごとに起きるところにある。(本田宗一郎)
- (4) どのような利益が数字の上で出ていようとも、安心して使えるのは手元にある自分のお金(キャッシュ)しかない。(稲盛和夫)
- (5) 最も美しいものとは、一体どこにあるのでしょうか、それは、一人一人の人間の中にあるのです。(マザーテレサ)

「ある・いる」の使い分けは、「存在主体」が無情か有情かによって決定されると説明されるのが従来である。例(1)~(5)はこの説に当てはまる。「存在主体」が有情である例(1)は「いる」、無情である例(2)~(5)は「ある」。体系化、単純化されている。

さらに、中国語と対照し所在文(1)~(5)の例文を中訳して比べてみる。その訳文は以下の通りである。(筆者訳、以下同)

- (1') 因為抱持遠大的夢想，就算夢想沒有實現，也在離夢想很近的地方，有時連帶著一些小夢想也會實現，這是我個人的感受。(福山雅治)
- (2') 最大的危險就在勝利的瞬間。(拿破崙)
- (3') 我生平最大的榮耀，並非在於不會失敗，而是在跌倒爬起的那一刻。(本田宗一郎)
- (4') 無論帳面利益多少，可安心使用的，只有掌握在自己手中的錢。(稲盛和夫)
- (5') 所謂最美的事物，到底在哪裡呢？最美的事物，就在我們每一個人的心中。(德蕾莎修女)

例(1')~(5')の中訳から分かるように、日本語の所在文「ある・

いる」は中国語にはともに“在”に訳せる。中国語の“在”は存在主体が有情か無情かに関係なく、“在”を訳せるため、中国語母語話者の日本語学習者からいうと、「ある」と「いる」の使い分けを明確に説明する必要がある。より正確に産出できるよう、その使い分けを下表にまとめてみた。

表 1. 日本語の所在文「ある・いる」の使い分け

日本語 構文：(存在主体) は/が (場所) にある/いる		中国語
いる	ある	在
存在主体が有情	存在主体が無情	区別なし

4. 存在文

存在文は存在主体に焦点を当てる文である。存在主体がある特定の場所にある/いることを述べる時、「(場所) に (存在主体) がある/いる」を使う。補語は「が」をとる。これは、前述の所在文「(存在主体) は (場所) にある/いる」と対応する。

従来、「ある・いる」の異同については、「ある」は無情のものの存在、「いる」は有情のものの存在を表す表現とされるのが一般である。金水(2006:13)は現代共通語では、「有生 (animate) の主語を取った場合、厳密に「いる」しか用いられない種類の存在文と、有生の主語を取っていても「ある」が許される種類の存在文とがある」と論じている。つまり、存在文には有情の「ある」用法(図 1)の言語現象がみられる。このような有情「いる」と無情「ある」の区別で収束できない有情の「ある」用法は学習者を混乱させてしまうのである。

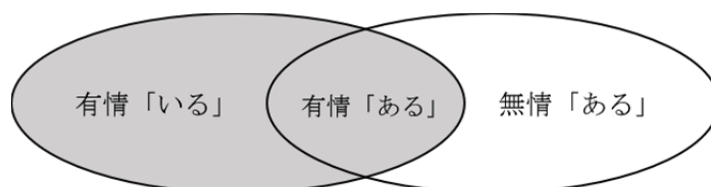


図1. 存在文での有情の「ある」用法

寺村（1982:159）は「居眠リヲシテイル議員ガ半分以上アッタ」のような例を挙げ、次のように言及している。

ある集合の中のある種の部分集合の存在を問題にする表現だと言ってよいだろう。この種の表現では、存在主体が有情であるかどうかという区別意識が全くなく、アルとイルの区別もなくなる。

寺村（1982:159）

言い換えれば、事柄として扱うとき、「有情」と「無情」や「ある」と「いる」の区別がなくなり、「ある」を使う。それでは、実際の言語現象はどうなっているのか、ことわざや名言から例を上げてみよう。

- (6) 残り物には福がある。(諺)
- (7) 上には上がある。(諺)
- (8) 世間には、大志を抱きながら大志に溺れて、何一つできない人がいる。言うことは立派だが、実行が伴わない。世の失敗者には、とかくこういう人が多い。(松下幸之助)
- (9) サラリーマンには2つのタイプがある。はっきりモノを言うズケズケマンと、上司の言うことは何でもよく聞くイエスマンだ。(伊藤雅俊)
- (10) 私の秘密をおしえましょうか。私は祈ります。キリストに祈るということは、キリストを愛することと同じなのです。救われるためにどうしたらよいのでしょうかと尋ねる人があつたら、私の答えは「神様を愛することです。そして、何よりもまず祈ること」(マザーテレサ)

例(6)-(9)からみれば、主語が有生（有情）であれば「いる」、無生（無情）であれば「ある」がそれぞれ使われ、体系の単純化へと収束していく傾向がみられるが、例(10)「尋ねる人があつたら」の場合は、このような有情と無情の区別という解説は例(10)で説明

できない。寺村が述べている部分集合、またはある事柄として扱うことから例(10)みると、このときは「ある」も容認される（図2）。

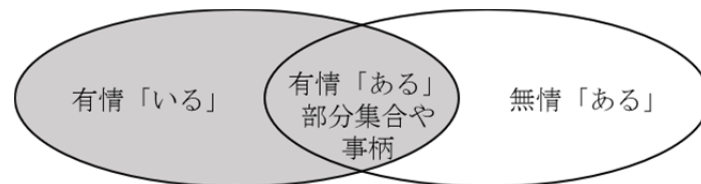


図2. 存在文での有情の「ある」の用法

次は、幽霊、化け物の「ある・いる」用法について論じたいと思う。「ある」か「いる」かをことばにする前、有情か無情かの区別判断が必要となる。一体、幽霊、化け物は有情に属するのか、無情に属するのかははっきり言えないが、話し手の判断で存在主体は人格性があるかどうか、「ある・いる」を反映する。「いる」は人格性があるものを反映し、「ある」は人格性がないものを反映する。よって、話し手は「幽霊」「化け物」にも人格性があると判断とし、「幽霊がいる」、「化け物がいる」となる。それに対し、人格性がないと判断とし、「幽霊がある」、「化け物がある」となる。（図3）。

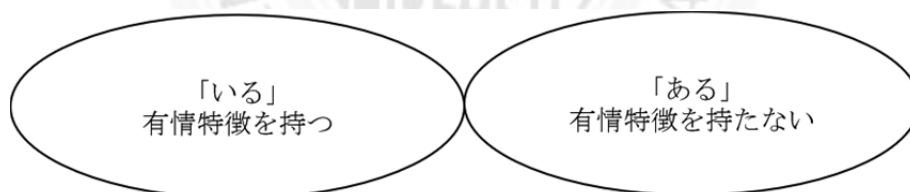


図3. 存在文での幽霊・化け物の「ある・いる」の用法

さらに、近年各業界で人間のよいパートナーとして活躍しているロボットの「ある・いる」用法をみる。本来は生命力のない無情と見なしてきたロボットは「ある」を使えばよいのだが、近年市場に出回る有情の特徴を持つ人工知能（AI）ロボットを「ある」で使うとなんだか違和感が感じる。本来ならば、「いる」は有情しか使えないが、2014年発売された感情認識ができるロボット・ペッパー（Pepper）³や人格性を持つ2017年世界初の公民権を獲得していた

³ 「感情エンジン」と「クラウドAI」を搭載した世界初の感情認識パーソナル

人工知能（AI）ロボット・ソフィア⁴のような有情の特徴を持つロボットの場合はロボットが「いる」と使われている。一方、有情の特徴を持たない産業用ロボット、例えば掃除用ロボット、搾乳ロボットなどの場合は「ロボットがある」で表現する。上述の内容をまとめてみると図4となる。

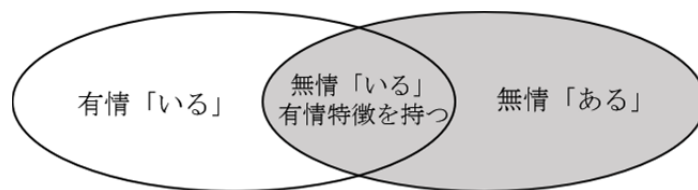


図4. 存在文での無情の「ある・いる」の用法

中国語の存在文には日本語のような用法の区別があるかどうか、存在文(6)～(10)の例文を中訳して確かめる。訳文は次の通りである。

(6') (在)最後拿的, 有福气。好酒沈甕底(諺語)

(7') 人外有人, 天外有天/強中自有強中手/一山還有一山高(諺語)

(8') (在)這世界上有胸懷大志卻一事無成的人。話講得天花亂墜, 卻不實際行動。這世上的失敗者, 大多是這一類的人。
(松下幸之助)

(9') 上班族當中, 有兩種人。一種是有話直說的桀敖不馴型, 一種是主管說一絕不說二的唯命是從型。(伊藤雅俊)

(10') 我將私人的秘密告訴你吧。我虔誠祈禱。向主祈禱就是愛主。如果有人問我:「如何才能得到救贖?」我的回答是:「愛主。還有, 最重要的就是祈禱」(德雷莎修女)

例(6')-(10')日本語の存在文「ある・いる」の使い分けは所在文より一層複雑となった。中国語は存在主体が有情か無情か、部分集合であるか、人格性があるか、感情認識があるかなどに関係なく、“(在)…有…”/“有”に訳せる。また、“(在)…有…”は例(6') (8')

ロボット。

⁴ https://www.excite.co.jp/News/odd/Karapaia_52248246.html (林 2018.10.17 アクセス)

のように、説明対象となる場合、“在”を省略することが可能である。日本語の存在文のような用法の区別はないので、中国語母語話者の日本語学習者により正しく日本語の存在文を産出するために、その使い分けを下表にまとめて記載する。

表 2. 日本語の存在文「ある・いる」の使い分け

日本語		中国語
構文：（場所）に（存在主体）がある/いる		
いる	ある	”（在）…有…”
有情	無情	区別なし
-	有情の部分集合/事柄	
幽霊、化物、ロボット		
人格性がある⇨有情	人格性がない⇨無情	
感情認識が可能⇨有情	感情認識が不可能⇨無情	
動的状態⇨有情	静的状態⇨無情	

5. 所有文

存在構文においては場所の概念だけでなく所有の概念も表されることが広く知られている。原澤(2003:1)「存在の場所を示す二格に人間などの有情物がくると、所有の意味が生じることが知られている」。その典型的な構文は「(所有、所属する人)に(は)(存在主体)がある/いる」と「(所有、所属する人)は(存在主体)を持っている」とされている。実例をあげてみよう。

(11) 私には 3 つの財産がある。それは学校へ行かなかったこと。健康に優れなかったこと。そして、決断に弱かったことだ。だから、人が教えてくれたり、助けてくれたりして成功した。(松下幸之助)

(12) 自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。

(松下幸之助)

(13) 愚者と天才の違いといえ、天才には限度があるということだ。(アインシュタイン)

(14) 経営における判断は、世間でいう筋の通ったもの、つまり「原理原則」に基づいたものでなければならない。我々が一般に持っている倫理観、モラルに反するようなものでは、うまくいくはずがない。(稲盛和夫)

(15) 大きな目標があるのに、小さなことに拘るのは愚かです。(ヘレンケラー)

例(11)-(13)は上述の基準に適應する。また、例(15)のように「所有者」とわざわざ言わないことが多いため、よく省略される。

「ある・いる」の使い分けが所有文にも生じる。一般には人間・動物が主語である場合に「いる」、それ以外に対して「ある」が用いられる。例(11)-(15)はこの基準に適應するものの、寺村(1982:157)は「アノ人ハ奥サンガアリマスカ」のような例を挙げ、「いる」よりも「ある」のほうが自然のようだと述べている。つまり、「ある・いる」の使い分けについて、有情と無情の弁別という説は所有表現に通用できない場合がある。これは前述の存在文と同じく、有情の「ある」用法の言語現象がみられる(図1)。

今回は限られた時間で、格言や諺には「人」に「ある」を使う例文が見当たらないが、そのよい例が童謡「七つの子」の歌詞、「からすは山に可愛い七つの子があるからよ」にある。たしかにこどもに「ある」を使っている。我々日常生活では「子がいる」「子がある」どちらもよく目にする言葉である。「子がいる」の場合は、命を持つ現実的な存在としてのこども、あるいは人格を持った存在としてのこどもとして捉えている表現である。「子がある」はこどもを抽象的な概念として捉えて、存在ではなく、所有を表している。つまり「私には子がある」となり、「私」という主体が「子」を所有しているという、所有意識を表しているのである。ただし、「人」に「ある」を使う場合には、制約があるといわれている。対象になる「人」は不

特定の人物である場合にしか使えない。つまり「私には子がある」や「山下には恋人がある」とは言えるが、「私には正男という子がある」とか、「山下さんには香穂子という恋人がある」という言い方は不自然である。また、特定の人物ではなく、単に「お父さん」や「子ども」「恋人」などが話題になった場合、「お父さんがある」や「子がある」「恋人がある」の表現を使う。それはお父さんや子ども、恋人に「大切な人」「縁を切ることできない相手」という意識が根底にあるため、「いる」ではなく「ある」が使われる（図5）。

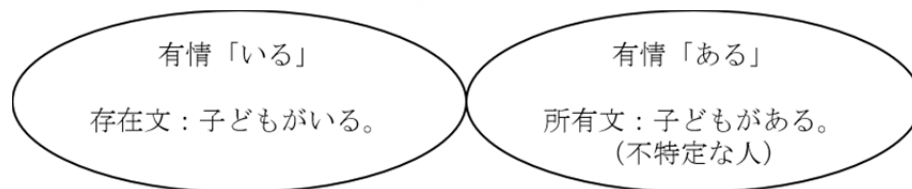


図5. 有情「ある・いる」の意味用法

図5と存在文での有情の「ある」用法の違いは、存在文は有情に無情の要素があったりして、有情と無情の重なる部分がある。所有文はそのような重なる部分はない。また、所有文や存在文は「ある・いる」を使うことによって、所有文のように存在主体（不特定な有情）＋「いる」存在文になったり、存在主体（不特定な有情）＋「ある」所有文になったりすることはない。

「いる」「ある」の区別を教える際、とりあえずは人間や動物は「いる」、それ以外は「ある」と教えればよい。わざわざ人間について「ある」で言う用法があることを示さなくてもよいと思う。なぜならば現在では「兄弟がある」より「兄弟がいる」のほうが普通の言い方である（白川 2005:48）。前述してあった寺村（1982:157）は「アノ人ハ奥サンガアリマスカ」の例を挙げ、「いる」よりも「ある」のほうが自然と指摘されている。一見、白川と寺村の見解が違ったように見えるのだが、「言葉は生きている」という言葉のように時代につれ、言語の共通認識が変わってゆき、寺村の時代では「奥様がある」のほうが自然、白川の時代では「兄弟がいる」のほうが普通である。言語の共通認識が変わっただけ、全く矛盾がない。ただ

「兄弟がいる」のほうが普通としても、有情の「ある」という言語現象が存在しているのも事実である。学習者のニーズに合わせ、段階的に導入するのが重要である。

次は、所有表現としては「持っている」という表現もある。

日本語において所有を表す動詞には「所有する」「もつ」「有する」などがあるが、その中でも「もつ」はきわめて使用頻度が高い動詞である。一方、「ある」は存在を表す動詞であるが、同時にまた所有の概念を表すことで知られている。そうすると所有という意味において「もつ」と「ある」とが重なる部分が出てくるわけである。

(原澤2003:3)。

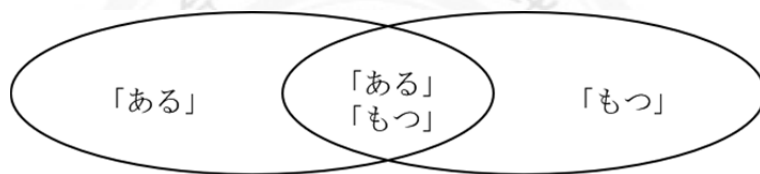


図6. 「ある」と「もつ」用法。原澤(2003)に基づき作成

無情に対しては直接的な所有表現で「持っている」といえるが、有情に対してはこの言い方はあまり使わないのが一般である。一方、寺村(1982:158)は「?アノ人ハ奥サンヲ持ッテイマスカ」「イイ奥サンヲモッテ幸セデスネ」のような例を挙げ、「持つ」が有情に使えないという一般化は単純すぎるだろうと指摘している。たしかに「妻子持ち」「主持ち」のような慣用句的な表現もよく見られる。そこで、次の例文を挙げ、「ある」「持っている」の違いを探ってみたいと思う。

- (16) a. 犬にはしっぽがある。
b. ?犬はしっぽを持っている。
- (17) a. 弟には優しいところがある。
b. ?弟は優しいところを持っている。
- (18) a. 私にはお父さんがいる。
b. ?私はお父さんを持っている。

- (19) a. 私はお金がある。
b. 私はお金を持っている。
(20) a. こどもには教育を受ける権利がある。
b. こどもは教育を受ける権利を持っている。

例(16)-(20)から分析すると、大きく分けて所有者と所有物が分離できるかどうか「ある・持っている」を反映する。「ある」は所有者と所有物が分離できないもの、抽象的なものを反映する。例(16)「しっぽ」は犬の体の一部、例(17)「優しい」は弟の性格、例(18)「お父さん」は私と血が繋がっていることで、どちらも所有者から分離することはできないものである。この場合は「ある」のほうが自然である。その一方、所有者と所有物が分離可能、具体的なものである場合、「ある・持っている」両方とも使える。例(19)「お金」は具体的なもののしかも分離可能で、例(20)「権利」は法律など外来から付与されたもので、場合によって、その権利を奪うこともある。そこで、「お金」「権利」は「ある・持っている」を使用可能である。

次は、中国語の所有文には日本語のような「いる・ある・もつ」用法の区別があるかを考察するため、所有文(11)～(15)の例文を中訳して検証する。

(11') 我有三樣財產, 那就是沒上學、身體差、優柔寡斷。因此, 大家會教導我、幫助我, 促使我獲得成功。(松下幸之助)

(12') 有自己為自己選擇的道路。還有上天賜予的神聖道路。(松下幸之助)

(13') 愚蠢與天才的差別在於天才是有極限的。(愛因斯坦)

(14') 經營方面的判斷、需根據世間道理法則、也就是必須遵循「原理原則」。人們有共同的道德觀、倫理觀、如果背道而馳、將會困難重重。(稻盛和夫)

(15') 有遠大的目標, 卻拘泥於小事, 這是愚夫的行為。(海倫凱勒)

例(11')-(15')の中訳から日本語「ある・いる・もつ」などの所有表現は中国語には“有”の意味が相似であることを示す。日本語

のような使い分けは見られない。日本語学習者によりの確に日本語の所有文を産出ために、その使い分けを次の表にまとめている。

表 3. 日本語の所有文「ある・いる」の使い分け

日本語 構文：(所有、所属する人)に(は)(存在主体)がある/いる		中国語
いる	ある	有”
有情	無情	区別なし
特定な有情	不特定な有情	

表 4. 日本語の所有文「ある・持っている」の使い分け

日本語 構文①：(所有、所属する人)に(は)(存在主体)がある 構文②：(所有、所属する人)は(存在主体)を持っている		中国語
ある	持っている	有”
有情	無情	区別なし
所有者と所有物が分離不可、抽象的なもの	—	
所有者と所有物が分離可能、具体的なもの		

所有文は上述のように「ある・いる・持つ」がある。これまでのような体系的な教え方は白川(2005:48)が「これは日本語学的な発想である」と述べている。すべての用法を学習者に覚えさせるのも不親切だし、学習者が一つの用法を使いこなせないのに、またその次の用法を覚えなさいといけないうようなペースだと、学習者の負担にかかり、学習意欲にもつながる。よって、学習者のニーズに合わせ、段階的に導入したほうがよいと考える。

6. おわりに

以上から踏まえて、中国語は日本語「ある・いる」のような有情

か無情か、動くか否か、部分集合であるか、人格性や感情認識があるかなどの使い分けがなく、日本語の所在文は中国語を訳すと“在”に、存在文は”(在) …有…”に、所有文は“有”に訳せるので、「ある・いる」の意味用法の区別はよく問われる。

本稿において、現在使われている名言と諺から存在表現である所在文・存在文・所有文について、「ある・いる」「ある・もつ」の意味用法を考察した結果、次のことを明らかにした。

- ① 存在表現である所在、存在、所有を表す三つ通りの用法の中、存在文と所有文で有情の「ある」用法がみられる（図1）。つまり、「ある」と「いる」の重なる部分がある。
- ② 本来ならば、無情である「ロボット」は「ある」のが普通のだが、人工知能の発展により、「ロボットがいる」のような生命力のない無情の「いる」用法の言語現象が起きることが観察された（図4）。
- ③ 図1と図2、図4、図6 有情と無情で単純化に収束できない「ある・いる」「ある・もつ」の重なる部分は、日本語学習者を混乱させてしまうところである。
- ④ 「ある・いる」「ある・もつ」の重なる部分の使用判断基準は有情「いる」と無情「ある」の基本区別から離れていないことがわかった。「幽霊、化け物、ロボット」など有情の特徴（自分の意志で動く、人格性、感情意識）を持つ場合、無情の「いる」用法を使う。一方、有情の特徴などが持たない場合、有情の「ある」用法を使う。また、例(15)「尋ねる人があったら」のような部分集合や事柄として扱う場合、「有情・無情」や「ある・いる」を区別なしに「ある」を使う。
- ⑤ 所有表現の「ある・持っている」について、以上の例からみれば、所有者と所有物が分離不可、抽象的なものの場合は「ある」のほうが自然である。所有者と所有物が分離可能、具体的なものである場合は「ある・持っている」両方とも使える。

今回は産出のための存在表現「ある・いる」の意味用法を考察してきた、「言葉は生きている」と言われているように時代につれ、言語の共通認識が変わってゆく。寺村(1982)の時代では「奥様がある」のほうが自然、白川(2005)の時代では「兄弟がいる」のほうが普通であるように、研究者も常に言語現象を観察しながら、時代と共に修正していくべきと考える。また、存在表現は上述の所在、存在、所有を表す三つ通りの用法があり、それぞれの構文が違うため、教育現場では学習者に負担をかけないように、それらの興味やニーズに応えられるよう、段階的に導入を提案する。

今後の課題としては中国語母語話者の日本語学習者により適切な文法表現できるよう、言語現象を観察しつつ、産出のための日本語教育文法を研究していきたいと思う。以上の考察結果を教育現場での指導に活用できたら、この研究の価値となると考えている。

参考文献 日本語(五十音順)

- 金水敏(2006)『日本語存在表現の歴史』ひつじ書房
- 白川博之(2005)「日本語学的文法から独立した日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 鈴木英夫(1998)「規範意識と使用の実態—『(人が) ある』と『(人が) いる』を中心として—」『日本語学』17-5, pp. 80-96
- 蘇文郎(1990)『各種表現の日中語対照研究—格表現、存在表現、可能表現を中心に』大新書局
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 原澤伊都夫(2003)「所有の意味を有する存在文について—意思性の有無の観点から—」『静岡大学留学生センター紀要』静岡大学留学生センター, pp. 1-11
- 益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版, p. 84
- 柳父章(1982)『翻訳語成立事情』岩波新書
- 山梨正明(1995)『認知文法論』ひつじ書房
- Kishimoto, H. (2000) "Locational verbs, agreement, and object shift in Japanese" *The Linguistic Review* 17: 53-109.